PP-0249

肺管癌UC with glandular differentiation症例の臨床的検討

山形県立中央病院泌尿器科，山形大学医学部腎臓器外科学講座

黑田 忠夫1，林 支電2，武藤 明理3，沼畑 信司3，菅野 理3，星 実次3，富田 善彦3

目的: 肺管癌において，UC with glandular differentiation (UCwithGd)は予後が悪いと報告されている。当院のUCwithGd症例で治療成績を比較し，臨床的経過を明らかにすることとした。

対象・方法: 2001年5月から2010年12月に当院で施行されたTUR-BTまたは肺管全摘除のうち，UCwithGd20例の臨床経過を検討した。

結果: 平均年齢68.2歳 (46-85)。男17例女3例。病期T1NOMO 2例，T1N0M0 5例，T2N0M0 6例，T3N0M0 2例，T3N1 3例，T4N0M1 1例。

Ta-T17症例のうち，腺癌10例，腺癌1例，腺癌1例，高齢生存1例，低齢生存1例であった。観察期間中央値12ヶ月 (1-115)。

T2-T4 13症例のうち，初回治療として11例で肺管全摘除，1例で化学療法を施行した。転移として，腺癌9例，腺癌生存4例，1年生存率58.3％，2年生存率30％，3年生存率20％であった。観察期間中央値14ヶ月 (3-49)。

結論: UCwithGdはhigh stage腺癌が多い，pure UCに比べ予後不良であった。

PP-0250

ピオギリタゾン塩酸塩（商品名：アクソス）の内服療法を有する肺管癌症例の検討

地方独立行政法人りんくう総合医療センター泌尿器科

金川 茂司1，斎藤 聖2，西村 脇之3，森山 奈良

目的: ピオギリタゾン塩酸塩（商品名：アクソス）の内服療法を1年以上有し，2010年以降に当科で診察した肺管癌症例を検討した。

症例: 男性6例，女性0例。発症年齢は61.85歳。全ての症例で肉眼的血尿を観察的に認められ，同症例でピオギリタゾン塩酸塩を1年以内内服していた。全ての症例でTUR-BTを施行し，病理診断結果は全ての症例でUrothelial carcinoma，かつ非腫瘍変態であった。そのうちHigh gradeを示す症例は4例であった。

考察: Ⅱ型膀胱癌治療薬であるピオギリタゾン塩酸塩について，2011年6月フランスの医学薬品規制局から同薬と再評価を行い，薬物間で比較する必要があることが報告された。本症の臨床現場でもⅡ型膀胱癌を考慮する肺管癌患者への同薬の投与中止が少なくないと考えられる。本研究は当施設での症例に関して若干の文献的考察を含み報告する。

PP-0251

非浸潤性肺管癌に対するsecond TUR-Btの臨床的検討

千葉県がんセンター泌尿器科，千葉大学医学部泌尿器科

李 宗裕1，塚田 直里2，宮地 昌信3，長田 光孝4，小林 善行5

奥山 貫仁5，小丸 真7，深沢 敬1，二瓶 直樹1，市川 哲之5，植田 健5

目的: 当センターでsecond TUR-Btを施行された症例について検討した。

方法: 2006年4月より2011年3月までの間に当センターで非浸潤性肺管癌（pTa，pT1）に対して，second TUR-Btを施行した64例（男性58例，女性6例）に対し臨床的検討を加えた。

結果: 平均年齢は65.5歳 (40-82歳)，初回TUR-Btからsecond TUR-Btまでの期間の中央値は43日 (19-90日) であった。初回病理診断はpTaが10例，pT1が54例であった。悪性度はG2が11例，G3が53例であった。残存腫瘍は30例 (46.9％) に認め，そのうち10例にCRの合併を認めた。53例が追跡観察とBGG肺管内注入50例，肺管全摘除5例であった。経過観察中，再発は14例に認め，そのうちsecond TUR-Btで残存腫瘍を認め10例を含む。

結論: Second TUR-Btは，正確な診断，的確な治療選択を行う際に有効な手段と考えられる。

PP-0252

糖尿病治療薬ピオギリタゾンの肺管癌における影響の検討

帝京大学ちはら総合医療センター

加藤 安家，稲葉 昌彦，村木 広，増田 伸，小島 智子，横谷 星男

背景: 糖尿病患者肺癌の発症リスクが高いとの報告がある。特に，肺管癌のリスクの増加の可能性についての研究が挙げられるが，我が国においては明らかではない。対象と方法: 帝京大学ちはら総合医療センターで2010年11年1日に，肺管癌の症例を集めた。

結果: 平均年齢は65.5歳 (50-79歳)，219例中，2例に肺管癌の発症を認めた。この発症は肺管癌の発症リスクが高まることを示唆する。